公共事業等から暴力団排除を！

阿蘇市・阿蘇警察署で合意書締結

市が行う公共事業等からの暴力団排除を徹底するため、阿蘇市と阿蘇警察署は「暴力団排除の推進に関する合意書」を締結し4月23日、同署で調印式が行われました。

合意内容は、市の公共工事等において入札参加者や請負者などが、「阿蘇市暴力団等排除措置要綱」に定める排除対象者に該当するか否かを警察に照会できるようにしたもので、今回の合意により、警察との連携及び協力体制がより一層強化されます。

県内の暴力団員数は30組織880人（平成25年3月末）という現状を踏まえ、藤山聰阿蘇警察署長は、「今回の締結で行政との協力により、多様化する暴力団の様々な不当行為に関して抑制が期待できる。今後も対策を進め地域の安心安全の実現に貢献できれば」と話しました。

握手を交わす佐藤市長（左）、藤山阿蘇警察署長（中）、佐藤産山村長（右）

6月1日から 火口東側登山ルート再開

阿蘇火山防災会議協議会は、5月14日の臨時総会で、仙酔峡ロープウェイの休止に伴い、通行を規制していた『仙酔峡ロープウェイ火口東駅～火口東展望所～中岳頂上登山ルート』の規制を解除することを決定し、6月1日から通行を再開しました。

同協議会では、通行規制は解除されたものの、火口周辺には有毒な火山ガスが流れていることから、注意事項（左記）を遵守し、安全な登山を呼びかけています。

登山の注意事項

①喘息、気管支疾患、心臓疾患、また体調不良の方は絶対に登山をしないこと。
②火山ガスに備え、タオルやハンカチ、マスク（気密性の高いもの）を携帯すること。
※ガスの臭いを感じたら、水に濡らしたタオル等で口や鼻を覆う。
③登山前には火山ガスが流れる方向など気象状況を確認し、特に東向きの風の場合には十分に注意をすること。無風、晴天の時には火山ガスが拡散しにくいので、注意が必要です。
④火山ガスの臭いが強い場合には、火口に近づかないようにし、火口から離れるか引き返すこと。
⑤体調に異変があった場合には、速やかに火山ガスが来ない場所に移動すること。（火山ガスは空気より重く低いところに溜まりやすいため、谷沿いの凹地を避けて、尾根筋などの高いところを歩く。）
⑥火口周辺は携帯電話の電波が届きにくい状況にあります。緊急時の連絡のために事前に通話エリアの確認をお願いします。

乙姫地区がJRウォーキングを誘致

乙姫地区で4月28日、JR九州が主催するウォーキング大会が開催されました。

これは、乙姫地区が同地区活性化委員会の協力により、内牧駅から歩いて見どころを散策するコースを企画し、JR九州に起用を打診。熱心なアプローチの結果、住民の企画・接待によるウォーキングが実現したものです。

当日は、ウォーキングコースで立ち寄る子安河原観音公園で接待しようと早朝から集合し準備。内牧駅から歩いて来る観光客900人、一人ひとりに笑顔で歓迎し、豚汁や饅頭を振る舞い、乙姫のお店の割引クーポン券などを配るなど、大いにアピールしました。

1「美味しい」と、手作りの豚汁に舌鼓を打つ参加者ら

2参加者一人ひとりにおもてなし

子宝の参拝で賑う「子安河原観音」で例大祭

例大祭は5月8日、乙姫地区の方々が参加し行われました。

昨年は2万人の参拝客が訪れた子安河原観音。松岡友秋区長は「これからも乙姫の発展のために取り組んでいきたい」と、意欲を見せています。

社会奉仕で子どもたちに図書を

オムロン阿蘇が図書カードを寄贈

オムロン阿蘇株式会社（鳥越浩二代表取締役社長）と同社労働組合（本多將吾執行委員長）は5月10日、自社で取り組む奉仕活動の成果として図書カードを市内小学校に寄贈しました。

図書カードを手渡す、鳥越社長（中央）と、本多執行委員長（左）

同社では、環境活動やボランティア活動に対する意識の向上のために取り組む「エコボラン（Eco-Volun活動」により、成果をポイント制にし、そのポイントを換算して、地域に寄付する取り組みを5年前から実施しています。鳥越社長は「子どもたちに工場見学など、社会教育の場を提供し貢献したい」と、話しました。

永年にわたり消防活動に尽力

佐藤愼一氏に瑞宝単光章

旧波野村消防団員として入団以来、40年の永きにわたり消防活動に尽力し功績があったとして、佐藤愼一氏（中江）が、瑞宝単光章を授章されました。

佐藤氏は、昭和42年に旧波野村消防団に入団し、平成8年に旧村消防副団長、平成17年には市消防副団長を歴任。指導力、統率力を発揮し、消防業務に大きく貢献されました。

5月17日、市役所で行われた伝達式で佐藤氏は、「このような章をいただき大変光栄です。今後も地域のために頑張っていきたい」と、授章の喜びを語りました。

市役所内での伝達式の様子
（写真右が佐藤愼一氏）

豪雨災害で漂着した流木を木炭に

玉名市の市民グループが木炭を寄贈

玉名市の市民グループ「環太平洋浄化300年計画有明支部」（吉田富明支部長）は5月9日、昨年の豪雨災害で荒尾玉名地域の海岸に漂着した流木を木炭にし、市に寄贈しました。

この木炭は、漂着した流木を有効活用しようと、約3㎥の流木を約半年間乾燥させた後、浜辺に海砂で造った窯を用いて製作。豪雨災害で被災した阿蘇市で活用してもらおうと市に寄贈しました。また、4月には東日本大震災で被災した岩手県の仮設住宅にも寄贈しています。

流木で造られた木炭

吉田支部長は、「私たちが暮らす玉名地域は阿蘇の山々からたくさんの恩恵を受けて生活している。木炭製作に不安があったが今回、無事に阿蘇に木炭を届けることができて良かった」と、安堵した様子で語りました。

寄贈を受けた木炭（土のう袋30袋分）は、阿蘇中央公園の水質浄化用として活用する予定です。

市役所内で、木炭製作の経緯を説明する市民グループの皆さん（写真左が吉田支部長）